［認知症対応型共同生活介護用］

調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成20年2月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	（※評価機関で記入）4670300872
法人名	鹿屋恵友会
事業所名	グループホーム花岡の里
所在地	鹿児島県鹿屋市花岡町3988番地 （電　話）0994-31-8937

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27－5　前田ビル1F
訪問調査日	平成　20　年　2　月　5　日

【情報提供票より】19年12月1日事業所記入

（1）組織概要

開設年月日	平成　16　年　9　月　1　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16　人	常勤　14　人，非常勤　2　人，常勤換算　10.7　人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2 階建ての　1 階 ～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	21,000　円		その他の経費（月額）	理美容・オムツ等　実費
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	150　円	昼食	250　円
	夕食	300　円	おやつ	100　円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（ 12月1日現在 ）

利用者人数		17 名	男性	3 名	女性　14 名
要介護1		6　名	要介護2	2　名	
要介護3		3　名	要介護4	6　名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均	83.1 歳	最低	67　歳	最高　97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	大隈鹿屋病院　小林クリニック　重久歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

錦江湾を望む斜面に建っている設立4年目のホームである。ベランダから見える景色はすばらしく、広いホールに畳敷きのスペースがあり、居室は家庭的で仏壇や鏡台が備えてあり居心地の良い住まいになっている。行事や買い物等外出の機会をできるだけ確保すると同時に、個々の利用者の役割を見つけ出し、利用者がいきいきと過ごせるように支援を行っている。家庭的なグループホームでありたいという職員の言葉どおり、利用者同士の助け合いのある家族のような雰囲気を感じるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価結果を職員が自由に閲覧できるような場所に置き、夜勤など時間に余裕のある時に目を通すように伝達している。改善課題の中で「緊急時の手当て」については、マニュアルに沿ってユニット会議で研修を行っている。しかし、応急処置等の定期的な訓練は十分とは言えず、できるだけ早く計画に入れるべき課題である。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価は全員に評価項目を配り、記入したものを纏めたが、ミーティングで話し合う機会を持つ事ができていない。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2ヶ月ごとに運営推進会議を開いている。利用者・家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・行政関係者などの参加があり、グループホームについて理解を深めてもらうための体制ができている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

入居時の説明書類には、相談窓口と行政等の苦情受付機関を明示している。また、玄関に意見箱を設置して家族等の意見を把握する機会を設けているが、今までに相談や意見が出てきたことはない。ほとんどの家族は月に1回以上のグループホームへの訪問があり、そのつど健康状態や生活の様子を知らせており、金銭出納についても個人別の台帳を作成し押印をもらっている。職員の異動状況については、面会時に新任の職員を紹介し不安の軽減に努めている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

昨年4月に町内会に加入している。町中から少し離れているので車で出かけることになるが、町内会の食事会に出かけたり、小学校の運動会・保育園の行事への参加等地域との交流を図っている。また、大学生のボランティア受け入れる等地域の方に訪問してもらうことにも努めている。

調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作った理念がある。具体的でわかりやすいが、利用者の声を聞き出しながら地域との関わりを加えた理念に作り変えたいという意向がある。	○	昨年町内会に加入する等、地域密着型施設としてのサービスに取り組み始めたところでもあり、利用者や職員とも話し合いながら、地域との関わりを含めた理念を作り上げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念はパンフレットやグループホーム新聞に明記し、ホールにもわかりやすい形で掲示している。また、職員は毎朝の唱和で当ホームの理念を確認し、毎日のケアに活かしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年4月に町内会に加入している。町内会の食事会に出かけたり、地域の大学生のボランティアの受け入れ、小学校の運動会・保育園の行事への参加等地域との交流を図っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価結果を職員が自由に閲覧できるような場所に置き、夜勤など時間に余裕のある時に目を通しておくように伝達している。また、今回の自己評価は全員に評価項目を配り、記入したものを纏めたものである。前回の評価結果及び今回の自己評価をミーティングで話し合う機会を持つ事ができていない。	○	評価のねらいや活用方法について全職員が理解するために、運営者や管理者は評価に積極的に取り組み、事業所の質の確保に取り組む事が求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開いている。利用者・家族・町内会長・民生委員・行政関係者などの参加があり、グループホームについて理解を深めてもらうための体制ができている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターや市の関係者が参加し連携の糸口になっている。また、介護サービスについての問い合わせを電話で行ったり、諸手続きを行う時に機会をとらえて連携をとっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族は月に1回以上のグループホーム訪問があり、そのつど健康状態や生活の様子を知らせている。金銭出納についても個人別の台帳を作成し、面会時に確認し捺印をもらっている。また、職員の異動状況については、面会時に新任の職員を紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明書類には,相談窓口と行政等の苦情受付機関を明示している。また、玄関に意見箱を設置して家族などの意見を把握する機会を設けているが、今まで相談・意見はない。	○	積極的に家族の意見や希望を聞き、運営に活かすためにアンケートの送付を検討中である。アンケート実施後に結果を職員全員で検討し、家族等にも報告するなどグループホームの運営に反映させることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者にとってダメージになることを理解し、最小限にするように努力している。また、新任の職員には業務の流れや重要事項説明書や利用者の特徴などについて研修を行い、なるべく早く馴染んでもらうように努力している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員の育成の必要性を理解し、研修案内を職員に紹介し受講を勧めている、外部研修はグループホームで1年に数回受講の機会がある。一方、施設内ではユニット会議でケアカンファレンスを行い、日々の体験を学びにつなげているが、職員各自に応じた段階的な計画は作成せず、研修の機会を確保しているとは言いがたい。	○	今後、職員の知識・技術の習熟度に応じて研修計画を立てたいとの事業所の意向がある。非常勤やパートを含めた全職員が質を向上させていけるように職員と十分に話し合いながら、施設外研修の伝達を含む施設内研修を年間計画の中で位置づけていく運営面での工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・大隅地区のグループホーム協議会に入会し、研修に参加することによって外部の施設との交流を図っている。他のグループホームへの訪問は管理者間ではあるが職員間ではまだない。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族に見学に来てもらい、グループホームの雰囲気を見てもらったうえで入居する仕組みとなっている。入居当初は家族の理解と協力をもらい、週末は帰宅する等の工夫をし、徐々にホームに慣れてもらうようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は職員と利用者が一方的な関係にならないように常に職員に話しをしている。また、料理について教えてもらったり、家族の面会がありうれしい場面では一緒に喜ぶなど、共に支えあう関係を築くように努力をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に家族や本人などから聞いたり、書いたりしてもらった情報を個人記録にまとめている。その後は日々の利用者の言動から気がついたこと、家族の面会時に聞いた事などを介護記録に記載し、申し送りをして他の職員と共有している。ただ、後に入手した情報を個人記録（介護記録とは別）にまとめるなどの整理はこれからである。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	面会時に聞いた家族の意見・職員の意見や受診時に得た主治医からの情報などを基に、ユニット会議で個別の介護計画を作成している。作成した介護計画は日々の記録の最初に綴り、家族には同意の記名捺印をもらっている。しかし、日々の記録と介護計画の関連が分かりにくく、介護計画の見直し時にも、本人の日頃の言動等に対する職員の気付きを十分に活かしているとは言いがたい。	○	本人がよりよく暮らすためには、本人・本人を良く知る関係者の気付きや意見・アイディアを出しあい、話し合った結果を基に介護計画を作る必要がある。そのためには計画の目標や具体的なサービスについて本人や関係者に十分理解してもらい、計画に対する本人の意見や関係者の日頃の気付きを伝えてもらうことが大切であり、その意見や気付きを反映させるための工夫が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は特に大きな変化がない時には3～6ヶ月で見直しを行い、モニタリング記録にも評価を記載し次の計画につながっている。また、状態が変化した時には担当者会議を開き、そのつど計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医受診時の送迎や同行、ホーム内での散髪や毛染め、墓参りの支援などを利用者の金銭の負担がない形で行っている。また、毎月1回は専門家を招いて整体を行い、利用者は喜んでいる。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族との話し合いによって決め、利用者ごとに希望するかかりつけ医が決まっている。また、受診時に付き添うことにより医師や看護師との関係を築き、家族には電話でそのつど報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と重度化した場合や終末期について話し合いを行うことはある。基本的に重度化した時には病院を紹介することとなっているため、グループホームによる看取りを行った事はない。また、状態が徐々に低下する時には家族と職員が話し合いを重ねながら対応している。しかし、グループホームの基本方針や重度化した時の対応マニュアルはない。	○	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について、出来るだけ早期から本人・家族・かかりつけ医等ケア関係者と話し合いを繰り返し、その時々の本人・家族の意向を確認しながら、対応方針の共有を図る事が求められる。
１．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシー保護については、部屋の出入りは必ず声を掛けてから行い、ドアを開けっ放しにしない、他の人が部屋に入らないように気を配るなど常に職員間で確認している。また、記録物は事務室に保管したり机にしまうなど、職員以外の人の目に触れないようにし、秘密保持の徹底に気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、体調や希望に合わせた暮らしを応援している。入浴の時間は決まりはなく希望に合わせて行う事ができ、着る服を時間を掛けて選んだり、毛染め・化粧品・美容院も希望を取り入れている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から食べたい物を話題にしたり、外食を取り入れたり、食材の買い物に行くなど食事を楽しむ配慮がある。また、職員も一緒に会話をしながら楽しい雰囲気での食事であり、一人ひとりのペースを大切にし、必要最小限の介助を行うのみである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の意向を考慮し、職員の都合に合わせる事がないようにしている。また、利用者の状態によって介助についたり、浴室付近で見守りを行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や潜在している記憶や力を活かして、掃除機をかける、玄関を掃く、カレンダーをめくる、他の利用者の世話をする、畑仕事・食事の後片付け等、様々な機会を見つけ場面作りを工夫している。また、行事やレクリエーションの時にも一人ひとりに応じた楽しみの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて外出の支援を行っている。ほぼ毎日外出する人もいるが、あまり外出しない人でも月に1～2回は外出するようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、外出傾向のある利用者は気持ちを理解するように努め、家族の協力を得て一時帰宅するなどの工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をもらい、年2回、昼夜の避難訓練を行っている。また、地域の協力も必要とのことで町内会とも一緒に訓練を行うように声を掛けている。災害に備えた備品については飲料水や食品の準備が十分とは言えない。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や飲水量を記録し把握に努めている。また、体重も毎月測定し記録しており、記録から利用者の身体の状況に気づく事がある。味付けや栄養バランスについても栄養士にアドバイスを求めている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、テーブルやソファーなどを置き、気に入った過ごしやすい空間を提供している。また、季節の花や落ち着いた小物を飾り、利用者がくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・鏡台・座いすなどの使い慣れた家具や小物・写真などを飾り、その人らしい居室であり、居心地良く過ごせる工夫がある。		